

2023 ~ 2024 年度国際ロータリーのテーマ



世界に希望を生み出そう

世界に希望を生み出そう

- 会長 中島 祐爾
- 幹事 緒方 公一

No.1859 令和 06 年 04 月 24 日 第 36 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30~

※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内

※事務所 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

 ※ URL <https://www.serc2720.org> ※ email serc@serc2720.org


■点鐘

■国歌斉唱「君が代」

■ロータリーソング「奉仕の理想」

(ソングリーダー 古田哲朗)



■会長の時間 (会長 中島祐爾)

松田会員に 40 周年諸行事の動画を作成していただきました。
(鑑賞)



■幹事報告 (幹事 緒方公一)

■来信案内

- 1) 慈愛園子どもホームより、「きっず kids Vol.59」の送付。

■クラブより

- 1) 本日の例会終了後、臨時理事会を開催いたします。

- 2) 次週5月1日(水)例会は、祝日が含まれる週ということで休会となっております。ご注意ください。

■今後の地区行事

2024	5月17日(金)	地区大会	大分県日田市	パトリア日田・日田温泉小京都の宿みくまホテル
	~ 18日(土)	福井学、古田哲朗、生駒ちあき、草村安宏、片岡貞志、松本繁、前田日出夫、村瀬直久、松岡泰光、松田和成、中島祐爾、小畑成司、緒方公一、杉本整哉、内田信行、山田公也		

■ロータリー情報の時間

(ロータリー情報担当 鈴木義親)

「東南ロータリー設立 40 周年行事と国際ロータリーの変化」



2024 年 4 月 12 日、13 日、14 日と宮崎の地に於いての 40 周年行事・式典に夫婦で参加させて頂きました。今回はこれまでの周年行事とは違い、遠隔地の宮崎での開催となり移動の手段に困惑しましたがロータリー仲間のご親切でファーストクラス的な交通手段でございました。しかしながら年寄りの身体には負担でございました。

本年の会長方針として「不易流行」というスローガンを掲げられました。これはいつまでも変わらない本質的なものを大事にしつつ新しい変化を取り入れるということです。式典出席者は来賓として台湾板橋南ロータリークラブ会員 26 名とご家族 20 名、和歌山東南ロータリークラブ会員 22 名とご家族 8 名、宇佐ロータリークラブ会員 5 名、我が熊本東南ロータリー会員 36 名、家族 30 名の合計 147 名と、コンパクトな出席者数でした。しかし、12 日夜の歓迎会、13 日の観光コースとゴルフコース、そして記念式典開催。14 日も観光コースとゴルフコースの後、お別れ会でのゴルフ参加者の表彰と盛りだくさんの 3 日間でございました。おもてなしされる方もおもてなしする方も、大変お疲れ様でした。

さて、最近の国際ロータリークラブは運営方法など大きな変化がみられます。変化の原因は何か？
と思いますに、まず会員の減少が考えられます。世界的にはこれまでの約 124 万人が約 120 万に減少、日本では約 13 万人が約 8 万 4 千人に減少、2,720 地区では約 3,400 人の会員でしたが現在は約 2,350 人でございます。

特に先進国である米国、日本は著しい減少を来しております。国際ロータリークラブの変化は会員減少への対応と同時に発展途上国への人道的支援活動にシフトしてきたように思えます。

国際ロータリークラブは
DLP(地区リーダーシッププラン)の制度化
地区の強化策として

- ・効果的なクラブの支援
- ・人材養成と組織の強化
- ・ガバナーの職務軽減のために分区代理の名称を「ガバナー補佐」へ、そしてガバナー補佐は分区だけを管理するのではなくガバナー職務を助け、ガバナーと共に地区全体を把握し、地区運営に協力する。

2004 年、CLP(クラブ・リーダーシップ・プラン)の導入を推奨。2010 年から・・・RI 戦略計画。

2013年から・・・ロータリー財団「未来の夢計画」など新しい方針を打ち出しております。

巨大化したロータリーの組織は常に会員増強に努めなければなりません。

そこでRIの戦略計画を支える3本の柱が生まれました。

- (1) クラブのサポートと強化
- (2) 公共イメージと認知度の向上
- (3) 人道的奉仕の重点化と増加

ロータリーのブランド化・認知度やイメージの向上によって会員増強が進むことを願ってRI。世界戦略を推進しました。

ロータリー本来の会員増強の目的は相互扶助である信頼という「心を集める」ことにあります。

組織運営のために人や金を集めることではありません。このことを私たちはしっかり理解しておく必要があります。

ロータリーも組織でありますので企業と同じように経済的基盤が必要です。また基盤はクラブであり会員の協力が不可欠であります。

ロータリー 四つのテスト (言行はこれに照らしてから)

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

■出席報告

(出席・プログラム担当 小竹誠)

月日	会員数	出席者数	MU	修正出席者数	出席率 (%)
04月10日	休会				
04月24日	43 (免4) 39	31 Zoom4			79.49

☆出席免除

04月24日

住江正治 島村徹男 志賀重人 永野昭一



■スマイル報告

(親睦・スマイル担当委員 武末直大)



◎前田日出夫 10,000円
先週は欠席してましたので、改めまして、40周年記念式典 中島会長、内田実行委員長はじめ、みなさん大変お疲れ様でした。



◎宮川義行 5,000円

4月19日、大阪吹田で高校の担任の先生の3回忌のお参りをしました。20日は姪の結婚式で東京に行きました。浜松町のホテルまで30分歩いて、夜はJRと地下鉄で浅草寺に行き、従兄弟たちと食事して、夜中最終でホテルに戻り、次の日は朝から芝公園や増上寺、東京タワーを歩き、結婚式場へ。2時間歩きました。式が終わって新幹線で新大阪ホテルへ30分歩いて、夜は高校の同窓会。夜中まで食事して30分歩いてホテルへ。日曜日に戻ってきましたが、久しぶりに車のない生活。歩いて、歩いて、いいりハビリになりました。都会はとにかく歩き続け。みんな歩くのが速い。大変でした。

■クラブ協議会

テーマ：地区研修・協議会報告

○社会奉仕部門 (堤 勝也)

○国際奉仕部門 (杉本整哉)

- ・出前セミナーの実施
- ・財団部門との合同セミナー (グローバル補助金の質問も多いので)
- ・支援活動模索
- ・いろいろな活動事例に、当クラブのウクライナ支援事業 (くまモン歯磨きセット) が紹介されていました。

○青少年奉仕部門 (西田智史)

部門方針：

青少年奉仕の目的「才能ある人材を育てる」を原点としロータリーの変革に対応しながらクラブの奉仕活動をサポートしていく。

活動計画：

RIが推し進める「ローターアクトの自立」の問題点、課題点を洗い出し提唱クラブと共に支援していく。またモデルとなるような新クラブの設立も目指す。

青少年交換：

国際ロータリーにおける奉仕活動の1つで高校生の交換プログラムを行っています。原則として青少年交換制度を携わっているプログラムです。他国の文化を経験するために、毎年約9000人もの生徒が世界中で青少年交換しています。

数あるロータリー奉仕プログラムで唯一ロータリアンの指定が参加できるプログラムです。

募集要項：長期交換 (3ヶ月以上1年未満)、2名から3名

短期交換 (3ヶ月未満)、熊本2名、大分2名

応募資格：

- ・日本国籍を有する学生で出発の年齢が16歳から18歳の生徒
- ・第2720地区の学校に在学する生徒、
- ・学年成績が上位2分の1以上で、語学の習得に積極的な生徒
- ・学校長の推薦及び留学または留学許可、休学許可を得られる生徒
- ・推薦クラブの会長の承認を得られる生徒

○ロータリー財団部門（武末直大）

ロータリー財団部門

部門長	林	明	(熊本江南)		
副部門長	彌	富	照	皇	(熊本東南)
地区補助金委員長	園	田	匠	(日田中央)	
資金推進委員長	高	見	裕	司	(大分キャピタル)
資金推進委員長	萩	尾	憲	司	(別府北)
GG・PP委員長	伊	牟	田	徹	(O.K.REC)
PFS委員長	末	永	克	典	(中津)

●活動方針

ロータリー財団は、ロータリー会員が、人びとの健康状態を改善し、質の高い教育を提供し、環境保全に取り組み、貧困をなくすこと通じて、世界理解、親善、平和を達成できるように支援する。

●活動計画

1. 最優先事項であるポリオ根絶に向けて、各クラブの世界ポリオデーイベントを支援する。
2. 財団の各補助金、財団の基礎知識等、セミナーを通して理解を促進する。
3. ロータリー財団（日本）の目標を達成する。

年次基金

- ・1人当り150ドル以上
- ・寄付0クラブゼロ達成を継続する
- ・ボール・ハリス・ソサエティの推進(目標30名)

ポリオプラス基金

- ・1人当り30ドル以上
- ・ポリオプラス・ソサエティの推進(年間100ドル)

恒久基金

- ・冠名基金(25,000ドル以上)の推進(目標2名)

大口寄付

- ・メジドナー(MD)10,000ドル以上を推進する(目標2名)
- ・AKSメンバー「AKS0地区」ゼロを目指す

4. 奉仕活動の推進

- ・グローバル補助金・地区補助金の活用の促進
- ・ロータリー平和フェローシップの推進
- ・RACへの補助金の活用について推進
- ・ロータリーカードの推進(個人カード・ビジネスカード)

○米山記念奨学会部門（宮川義行）

米山奨学会は、米山記念奨学委員会をはじめ、4つの委員会に分かれて、活動しています。

米山資金推進委員会、米山奨学生選考委員会、米山学友会・奨学生支援委員会です。

・米山奨学委員会は、正副部門長と部門内委員会の各委員長と部門長経験者からなり、地区執行部、東京の米山奨学会本部との連絡調整をおこないます。

・米山資金推進委員会は、米山事業の寄附金推進を目標に、企画、運営しています。

・米山奨学生選考委員会は、6月に2720知己の採用数決定を行い、7月に指定校選定委員会を開き、9月に学校訪問と指定校説明会をおこないます。

12月、面接官オリエンテーション、米山奨学生選考委員会を開催します。

・米山学友会・奨学生支援委員会は、米山奨学卒業生で作られる学友会の活性化をはかります。

その他の行事として、奨学生を集めた夏季セミナー、奨学生オリエンテーション・カウンセラー報告会・米山奨学生による他クラブへの卓話訪問があります。

10月の米山月間に、卓話依頼が集中するので、7月から12月の期間の票準化をおこないたいと思います。

次に、米山記念奨学会についての、説明がありました。

ロータリー米山記念奨学事業とは、全国のロータリアンからの寄付金を財源として、日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給し、支援する国際奨学事業です。

日本ロータリーの独自の事業ですが、国際ロータリーの承認のもとに行っています。

米山梅吉氏の名前を冠していますが、米山家の資産をもとに作られた財団ではありません。

全国のロータリアンの寄付金で成り立っています。

他の奨学金のような、苦学生に経済援助を行う目的とは違います。

日本と世界を結ぶ懸け橋となつて国際社会で活躍し、ロータリー運動のよき理解者となる人材を育成することが事業の使命です。

米山記念奨学会部門は、他の部門と違い、主に4月から3月の取り組みになります。

準備も含めると、1年間通しての活動になります。

カウンセラーの皆さん、よろしくお願ひします。

なお、この活動は、青少年奉仕、国際奉仕、奨学生のアクトへの参加と社会奉仕への参加、将来のロータリアン候補であり彼らの周囲への働きかけでロータリーへの会員増強にもつながります。彼らがロータリー精神を学び、真に社会に役立つ職業人に育つてくれれば職業奉仕にもなります。

また、米山には、ホームカミング制度があります。

過去にクラブでお世話した奨学生を、1地区につき年間2名まで招へい可能。海外在住だけでなく、地区外に住んでいる学友も対象になります。

米山財団から補助が出ます。

留学生たちは、例外なく日本が大好きな子たちばかりです。皆さんとの触れ合いを通して、ますます日本の良さを感じてほしいと思っています。

私たちは、彼らを通して外国の文化や習慣を学ぶいい機会におなるとおもいます。

1年間、宣しくお願ひ致します。

■点鐘

編集 松尾 浩

佐賀の自然といきもの：環境保全活動

投稿日：4月15, 2024 投稿者：Rotary Japan

～佐賀市内河川の外来種対策と希少種保護

寄稿者：古川 尋美（佐賀南ロータリークラブ会員、RI 第 2740 地区グローバル補助金・平和フェロー小委員会委員長）

佐賀市中心部には、江戸時代の初めに佐賀城下の町づくりの一環でつくられた大小の水路網が張り巡らされています。水は多布施川から供給されており、多布施川も水路網も人がつくったものです。人がつくったこの水辺環境に、トンボ、淡水魚、水草など、さまざまな水生生物が住みつき、繁栄しました。

希少淡水魚の多さは特筆すべきで、絶滅の恐れがある生物として環境省がリストアップしているニッポンバラタナゴ、カゼトゲタナゴ、カワバタモロコなど、「イリオモテヤマネコ」や「アマミノクロウサギ」に匹敵するような希少生物が人の身近にいます。これだけの希少生物が人の生活圏に共存していることは、全国的にも珍しく、佐賀市の宝物と言えます。

その水生生物の楽園が、いま危機に直面しています。その原因の一つが、外来水生植物コウガイセキショウモです。コウガイセキショウモは、アクアリウムプランツ（アクアリウム水槽用水草）として輸入・市販され、購入した人が野外に流出させたと考えられています。その旺盛な繁殖力から生態系への影響が懸念され、環境省が重点対策外来種に指定しています。川底に絨毯のように広がって空間と光を独占し、魚が泳ぎ回ろうにも身動きできないようなところすらあります。



呼びかけチラシ

そこで、佐賀南ロータリークラブの主催で除去活動をするようになりました。コウガイセキショウモは佐賀市内の複数の場所に侵入していますが、除去活動の場所として多布施川の特定箇所を選んだのは理由があります。外来種そのものが問題視されていますが、元をたどれば人間の身勝手な行為が原因です。残念なことに、外来種問題や在来生物の保全に無関心な人が少なくありません。地域の人びとが無関心である限り、問題は解決しません。このため、地域の人に関心を持ってもらえるよう、人口が多くて人目につきやすい、佐賀市民であれば誰もが知っている多布施川、特に数年前からコウガイセキショウモが密生している下流を活動場所に決めました（呼びかけチラシ参照）。

次に検討したのは除去範囲と除去方法です。密生範囲の下流側だけで除去しても、上流側からまた広がってくるのであまり意味がありません。また、一度にすべての除去は不可能です。このため、密生範囲の最上流部を駆除対象エリアとしました。除去作業中に株が下流にさらに広がらないよう、作業エリアの下流側に支柱を複数立ててネットも張ることにしました。

除去方法は、胴長を着用して川に入り、佐賀市から借用した河川管

理用の道具を使ってコウガイセキショウモを引き上げるというものです。

活動当日の3月20日には、当クラブ会員23名のほか、地元のNPOや中学校、市職員、マスコミ4社、市民（応募者）など、総勢65名が参加しました。また、当日には参加できなかったものの、計画や手配に協力してくれた方々も含めると、延べ100人程度がこの事業に参加したことになります。さらに、除去活動に先立って地元の中学校全学年向けの事前学習会も行いました。

川から引き上げたコウガイセキショウモは、軽トラックで処分場まで運びました。幸い水路が発達している佐賀市では、河川清掃用の道具も充実していて、除去した水草などを運ぶ小さな船を佐賀市が所有しています。この船を借用して、除去したコウガイセキショウモを軽トラック待機場所へ船で運ぶことができました。軽トラック待機場所までかなりの距離があり、川底も泥が堆積して足がとられるなど体力が必要でしたが、作業に参加した龍谷学園の生徒さんが若い力で大いに貢献してくれました。



今回除去したコウガイセキショウモは、全体のほんの一部にすぎません。しかし、地元の学校の生徒さんや一般の方々の参加もあり、活動の目的の一つであった「地域の人に関心を持ってもらう」きっかけになったと感じています。活動に参加した中学生たちの感想からも、そのことがわかります：

- ・「外来種の危なさについて知ることができた」
- ・「はじめは大量に外来種が取れていたけど、みんなで協力した後は取れる量がどんどん少なくなり、駆除活動にやりがいを感じた」
- ・「知らなかっただけで、こんなにたくさんの希少な生き物が身近に住んでいる、その生きもののため、地域のために活動ができて気持ち明るくなった」

外来種駆除は一朝一夕に解決できる問題ではありませんが、一人でも多くの方がふるさとの自然や生き物に関心を持ち、それを守る行動へと発展させていくことを願って、これからも活動を続けていきたいと思っています。佐賀南ロータリークラブが投げかけた活動案に賛同し、事前調査、関係機関との調整、作業用具の準備、広報活動、最終調整確認、活動実行などで協力してくださった皆さん、おつかれさまでした。

ロータリーボイスより